

受付番号	2022-25		
許可番号	大歯医倫 第 111233-0 号		
研究課題名	オーラルフレイルスクリーニング質問票(Oral Frailty Index-8: OFI-8) と慢性腎臓病(CKD)との関連の解明		
研究責任者	楠 博	申請者	楠 博
研究終了日	2025 年 3 月 31 日		
所 属	内科学講座	所 属	内科学講座
職 名	講師	職 名	講師

申請の概要

高齢者の口腔機能低下(オーラルフレイル)は全身にも悪影響を及ぼすことが近年注目されており、全身のフレイルや加齢に伴う筋肉減少症(サルコペニア)とも関連していることが知られている。一般外来で簡単に評価できるスクリーニング質問票(Oral Frailty Index-8: OFI-8)はオーラルフレイル状態にある高齢者を十分に判別でき、将来の要介護新規認定を予測し得ることが明らかにされている。

一方で、腎機能と全身のフレイルとの関連が注目されている。腎機能は通常、クレアチニンを用いて評価するが、筋肉量の影響を受けにくいシスタチン C による推算糸球体濾過量(eGFRcys)による腎機能の評価の方がフレイルとの関連が大きいことを報告している。

最近では口腔機能の重要な指標である舌圧が eGFRcys と有意に関連しており、全身のサルコペニアと同様の関係が、口腔においても認められることを報告している。

本研究では一般内科外来(本学附属病院内科および国立循環器病研究センター 腎臓・高血圧内科)に通院する高齢者を対象とし、OFI-8 を用いて口腔機能低下を認めた群と認めなかった群間で腎機能指標の相違を解析する。ひいては OFI-8 により口腔機能の低下に加えて潜在的な腎機能低下を検出し、早期の口腔機能改善による全身の潜在的な臓器障害の改善の可能性を検証することで、今後の医科歯科連携における有益な知見が得られることが期待される。